学苑　No. 826　(1)～(20)（2009・8）

スペインの投票行動と政党システム

――2008年総選挙に見るスペイン政治の「特殊性」――

加　藤　伸　吾

はじめに[1]

スペインにおいて最近の総選挙が実施された2008年は，スペインの現行憲法制定30周年に当たる。総選挙としては，76年に開始されたスペインの民主化後第10回目となる。この10回の総選挙を含め，この30年間，政治分野はもとより，諸外国からステレオタイプなイメージに基づくエキゾチシズムとともに，「Spain is different」として特別視されてきたスペインが，少なくとも政治のレベルにおいては「『普通の』民主主義国」へと脱皮してゆく過程として解釈できよう。

過去の選挙を振り返ると，80年代までは，77年の制憲議会選挙，民主主義体制の存立に直結していた民族自治問題や経済危機への対策が争点となった79年選挙，軍の一部によるクーデター未遂の翌年に実施され，右派政党から左派政党への政権交替が実現した82年，NATO加盟を問う国民投票を僅差で通過した直後の86年選挙等，「民主化と民主化直後の国際社会への復帰」が共通して大きなテーマであった。その後，ゴンサレス首相の社会労働党（Partido Socialista Obrero Español，以下，PSOE）長期政権の腐敗が次第に顕在化した89年と93年，汚職と国家テロ[2]による信用失墜の結果PSOEが下野し，右派国民党（Partido Popular，以下，PP）に政権が移った96年，民主化後最低の投票率でPPが下院[3]の絶対多数を制した2000年選挙と経るにつれ，フランコ権威主義体制とスペイン内戦のイメージは薄れゆくようにも見え[4]，アスナールPP政権（96～04年）の安定した経済成長とともに，国際社会に復帰した中級国[5]，民主主義国としてのスペインを印象づけた。

1　本稿は，筆者が在スペイン日本大使館専門調査員在職時，外務省に提出した専門調査員報告書を元に，加筆修正したものである。執筆に際し，貴重なコメントを頂戴した山田彰外務省国際協力局参事官（前在スペイン日本大使館公使）及びマリア・ホセ・ボレル同館政務班職員，サントス・フリア教授（スペイン国立遠隔教育大学），ベレン・バレイロ社会調査センター所長に対し謝意を表したい。特にバレイロ氏からは，スペインにおける選挙の計量分析の専門家として，同分野においては完全な門外漢である筆者に叱咤激励と数多くの助言を頂いた。

2　いわゆる「GAL事件」。83～89年，治安警備隊幹部を含む「反テロ解放グループ（Grupo Antiterrorista de Liberación）」がETA構成員（及びその疑いのある者）の誘拐・殺害を組織的に実施していた。

3　スペインは二院制だが，首相指名に上院の指名を必要としない等，上院の権限は限定されている。また，国民の上院の動向に関する関心も極めて低く，08年1月から総選挙投票当日までの期間，主要全国3紙（『エル・パイス』，『エル・ムンド』，『ABC』）で上院の話題が独立した記事として取り上げられたのは数回しかない。以下，本文でも断りのない限り「総選挙」即ち「下院選挙」と同義とする。

4　このスペイン固有の歴史記憶問題は，2000年代中盤から再び政治的イシューとして注目されるようになった。その一つの帰結が，いわゆる「歴史記憶法」である。詳細については，拙著「スペイン『歴史記憶法』の成立過程（2004-2008）」，外務省第一国際情報官室（編）『外務省調査月報』2008年第4号，pp. 1-25参照。

5　アスナール政権期の外交方針に関する文書では，スペインは「中級国」と自己規定されている。例えば，アスナール期に内容が決定された対アジア太平洋政策の大綱である通称「プラン・アシア　2005-2008」を参照。Ministerio de Asuntos Exteriores y de Cooperación, *España hacia Asia y el Pacífico*, 2004.

03年には，経済成長による後押しを受け，国際社会での地位の更なる向上を目指すアスナール政権が，世論の大部分の反対を押し切ってイラクに派兵，04年総選挙の直前には，イスラム原理主義者によるマドリード連続列車爆破テロ事件により，スペイン固有の問題であるETAテロのみならず，「グローバルな問題としてのテロリズム」から，スペインが免れ得ないことが明らかとなった。

前回04年選挙では，「スペインの更なる近代化」を掲げたサパテロ書記長のPSOEが政権を奪還した。このサパテロ第1期政権の4年間はPSOEとPPによる全方位的な与野党対立[6]により特徴づけられ，民主化を達成した「合意の精神」への回帰を求める声が高まった。

今回08年総選挙の主要な争点は，経済政策，移民，テロ対策等であり，いずれも，グローバル社会が突きつける課題に，民主化と国際社会への復帰・地位向上を経て，「『普通の国』へと成長した」スペインが如何に対応するかが問われた総選挙であったとも言える。サパテロPSOEは，自政権4年間の成果を強調しつつ，今回も「スペインの更なる近代化」を掲げて選挙戦に臨む一方，ラホイ総裁のPPは，全方位的与党攻撃の手を緩めることなく投票日を迎えた。結果として，サパテロPSOEが04年に続き再び信任を得て，その課題群に臨むこととなった（詳細は後述）。

	割合（%）	回答数
左（1-2）	7.7	1401
（3-4）	29.4	5358
（5-6）	33.9	6174
（7-8）	9.3	1692
右（9-10）	2.0	358
分からない	10.0	1830
無回答	7.7	1406
合　計	100.0	18221

表1．政治的イデオロギーに関する自己評価（08年総選挙前）[7]

「Spain is different」との言説は，スペイン政治研究においてもしばしば言及されるところである[8]。また，外国人のみならず，スペイン人自身の手によっても強化されてきた嫌いがある。そういった政治面でのスペインの特殊性を強調する言説の一つに，スペイン人自身による「スペインは中道

6　主にPPによるPSOE攻撃，という形をとったとはいえ，守る側のPSOEも「合意の精神を破壊するのはPP」と反撃した。PSOE側からの見方として，Fundación Alternativas, *Informe sobre la democracia en España 2007: La estrategia de la crispación*, Madrid, 2007を参照。

7　CIS, *Estudio 2750 Preelectoral Elecciones generales y al Parlamento de Andalucía 2008*, Resultado Total nacionalより作成。（http://www.cis.es/cis/opencms/-Archivos/Marginales/2740_2759/2750/e275000.html），質問31:「政治の話になると，通常右と左という表現が使用されます。本質問票には，左から右に到る一連の箱が並んでいます。貴方はどの箱に自分を位置づけますか？」。なお，（1-10）の表示は原典のままとする。

8　例えば，Howard J. Wiarda, “Spain 2000: A Normal Country?”, *Mediterranean Quaterly*, Vol. 11, Number 3, Summer 2000, pp. 30-61，及びDieter Nohlen y Rainer-Olaf Schultze, “Los efectos del sistema electoral español sobre la relación entre sufragios y escaños. Un studio con motivo de las elecciones a Cortes de 1982”, *Revista Española de Investigaciones Sociológicas*（*REIS*）, Madrid, 1985, pp. 179-200.

左派国家」との自己定義がある[9]。

表 1. は，サパテロ首相続投が決まった今回総選挙の直前期に実施された，スペイン首相府付の世論調査機関である社会調査センター（CIS）による最新の世論調査結果の一部である。5〜6 の回答をいわゆる「中道層」と仮にするなら，1〜4 と回答している割合の合計は 37.1%，他方で 7〜10 と回答したのは 11.3% に過ぎない。他方，表 2. は，右派 PP が下院絶対多数を制した 00 年総選挙前に実施された，同じ質問文に対する回答である。

	割合（%）	回答数（＊）
左（1-2）	6.7	（1609）
（3-4）	23.2	（5571）
（5-6）	34.7	（8332）
（7-8）	11.3	（2713）
右（9-10）	3.2	（768）
分からない	12.8	（3073）
無回答	8.0	（1921）
合　計	100.0	24011

表 2. 政治的イデオロギーに関する自己評価（00 年総選挙後）[10]

「左」の数は表 1. より少ないが，全体としては，表 1. とほぼ同様，「左」（1〜4 との回答 29.9%）が「右」（7〜10 との回答 14.5%）より多い。08 年選挙では PSOE が勝利しているが，00 年選挙では PP が絶対多数（定数 350 議席のうち 183 議席）を制している。ここに政治的イデオロギーに関する自己評価と総選挙における投票行動の，一定の乖離が観察される。

まず，00 年総選挙と 08 年総選挙には，投票率に大きな差がある。前者では，前述の通り民主化後総選挙中最低の投票率（68.71%）だった一方，後者での投票率は 75.32% と比較的高く，PSOE が 169 議席の相対第一党となった。

この投票率と勝利政党の相違に注目し，かつ「中道左派国家としてのスペイン」の認識を，総選挙におけるスペイン有権者の投票行動に関する仮説として根拠づけているものが，いわゆる「左派浮動層（西: izquierda volátil，英: volatile left）」仮説である。つまり，スペインに固有の「左派浮動層」が一定数存在し，イデオロギー的傾向としては左派（表 1. 及び 2. の通り）だが，投票行動としては棄権する傾向が強い。00 年選挙ではこの有権者層の多くが棄権し PSOE の得票に繋がらなかったため，PP が大勝したと説明されるのである。

本稿の第一の目的は，08 年総選挙結果に基づき，この「左派浮動層仮説」を検証，同仮説が本当にスペイン政治の「特殊性」の根拠たりえるかを検討することにある。以下，1. では，「左派浮動層

9　例えば，スペインのベストセラー作家で右派の代表的な論客であるピオ・モアの手になるエッセイを参照。Pío Moa, “¿Un país de centro-izquierda?”, *Libertad Digital*, 7 de enero de 2005.（http://revista.libertaddigital.com/articulo.php/1276229473）など。

10　CIS, *Estudio 2382 Postelectoral Elecciones generales y al Parlamento de Andalucía 2000*, Resultado Total nacional より作成。（http://www.cis.es/cis/opencms/-Archivos/Marginales/2380_2399/e238400.html）。質問文は同じ。

仮説」について詳述し，今回08年総選挙結果を全国，次いで選挙区ごとに観察する。その結果全国レベルでは「左派浮動層仮説」が概ね該当するが，選挙区レベルで観察した場合，「左派浮動層仮説」では説明しきれない場合があることが示されて，同仮説の厳密な意味での説明能力が否定される。2. では，同仮説に代わり，スペイン政治の特徴として，スペイン独自の政党システムの性格を明らかにする最近の計量分析の6つの指標に依拠しつつ，長期的傾向から08年総選挙を位置づけ直す。「おわりに」では，それまでの議論に基づき，政治面での「スペインの特殊性」に関する若干の考察が示される。

1.「左派浮動層仮説」

（1） 概　要

モリーナスの「『左派浮動層』の決定力」と題する論説[11]によれば，①特定のイデオロギー傾向を持つ有権者層及びその数（「左派浮動層」）は約200万票と特定でき，また②全国レベルでの投票率の上下と左派政党の得票数の増減に一定の相関関係が認められる。以下に詳述する。

モリーナスによれば，第一に《PSOE及び統一左翼（共産党を含む左派政党の連合政党。Izquierda Unida，以下，IU）の合計得票》が，《PP（とその前身である国民同盟，国民連合）及び同党と継続的な協力関係にある地域主義政党の合計得票》を，82年以降7回の総選挙中6回で上回っている（以下本項では前者を左派政党，後者を右派政党とする）。その6回の選挙において，得票率の差は，最小で約230万票，最大で約350万票である。

唯一の例外は00年総選挙で，得票差は約100万票差で右派政党が上回る。96年選挙と00年選挙の左派政党の得票差は約270万票の減少で，その内200万票が棄権による減少分に帰せられるが，04年選挙では，その270万票を左派政党が再獲得した。00年選挙において，右派政党は96年選挙に比して約60万票増加しているが，04年選挙でその増分を失っている。以下は，その数字に関するモリーナスの解釈である。

> この数字を，私（筆者註: モリーナス）がかつて「中道層（votantes centristas）」及び「左派浮動層」と呼んだ集団の数量化に使用するのが合理的だと思われる。「中道層」は，（略[12]）右派政党が00年選挙で獲得した約60万票と見積もり得る。この数字は，04年に失われた票数に一致している。（略）この約60万票は，00年選挙において決定的ではなかったとするのが適当である。その約60万票を得なかったとしても，第一党は確実だったからである。決定的なのは，浮動票の逃避による左派の瓦解である。この「左派浮動層」は，96年選挙で左派政党に投票し，00年に棄権，04年に再び左派政党に投票した，約200万票と見積もり得る（下線筆者）。

第二に，モリーナスは，「スペイン内務省のホームページからデータをダウンロードすれば誰にでもできる，単回帰モデルを使用した選挙データの統計的分析を行えば，次の結果を得ることができる」としている。以下は筆者がその結果を箇条書きにしたものである。

①PSOEの得票率と投票率，及びPSOEの得票率とIUの得票率の間に，有意な相関関係がある。IUの得票率が1%上がればPSOEの得票率が1%下がる一方，選挙における投票率が1%上が

11 César Molinas, “El poder decisorio de la izquierda volátil”, *El País*, 11 de noviembre de 2007, p. 39. 以下本稿におけるモリーナスの引用及び要約も全て同論文より，筆者訳。

12 モリーナスによる，04年選挙で右派政党がこの「中道層」を失った理由が述べられている部分だが，省略した。具体的には「相対多数のPPが穏健さと良い行政をもって旨とした時期の後」との原文。

れば，PSOE の得票率が 0.6% 上がる。

②PP の得票率と投票率の間には相関関係はない。

③IU の得票率が 4% を維持し，投票率が 71% を下回れば，PSOE が勝つ可能性は少ない。

④IU の得票率が 6% に達した場合，PSOE は 74% 以上の投票率を必要とする。

また，モリーナスは，この仮説の限界として，大選挙区比例代表制ドント式（選挙区ごと 3% 条項あり）等の選挙制度の側面，及び新たな有権者[13]の加入を考慮に入れていないことを挙げている。

（2） 2008 年総選挙結果（全国）

2008 年総選挙結果（投票率，政党ごと議席数及び得票率）を，04 年との対照において，全国レベルで示したのが表 3. である。

	2008			2004		
有権者名簿登録数			33,875,268			34,571,831
投票数			25,514,671			26,155,436
投票率（%）			75.32			75.66
政党名	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
社会労働党（PSOE）	11,064,524	43.64	169	11,026,163	42.59	164
国民党（PP）	10,169,973	40.11	153	9,763,144	37.71	148
カタルーニャ連合（CiU）	774,317	3.05	11	835,471	3.23	10
バスク民族主義党（PNV）	303,246	1.20	6	420,980	1.63	7
カタルーニャ共和左派（ERC）	296,473	1.17	3	652,196	2.52	8
統一左翼（IU）	963,040	3.80	2	1,284,081	4.96	5
ガリシア民族主義ブロック（BNG）	209,042	0.82	2	208,688	0.81	2
カナリア連合（CC）	164,255	0.65	2	235,221	0.91	3
団結・進歩・民主（UPyD）	303,535	1.20	1	（08 年からの新党）		
ナファロア・バイ	62,073	0.24	1	61,045	0.24	1
バスク連帯党（EA）	50,121	0.20	0	80,905	0.31	1
アラゴン主義者党（ChA）	37,995	0.15	0	94,252	0.36	1

表 3. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（全国）[14]

13 新たに選挙権を行使する若年層（選挙権は 18 歳から）の他，スペイン国籍を取得した移民などが想定される。マドリードの中南米系移民向け新聞『ラティーノス』（http://www.latinomadrid.com/noticia.pho?id＝6640）によれば，08 年総選挙で投票権を持つ移民はおよそ 30 万人であり全有権者の 1% 以下であること，及び，移民そのものがスペインにおいては比較的新しい現象であることから，別稿を期したい。

14 内務省 HP（http://www.generales 2008.mir.es/99 CG/FTOP.htm）より筆者が作成。以下本文において，総選挙結果に関する数字を示した場合は全て同じ。表 3. については，08 年あるいは 04 年の総選挙で議席を得た政党のみを掲載した。なお，同じ内務省の別ページ（http://www.elecciones.mir.es/MIR/jsp/resultados/comunes/detalleResultado.jsp?tipoAmbito=1&tipoEleccion=0&cdEleccion=2&anio=2008&mes=3&numVuelta=1&nombreEleccion=Congreso+de+los+Diputados&horaCierre=20:00&horaAvance1=14:00&horaAvance2=18:00&cdCCAA=99&cdProvincia=0&descripcion=total）に，若干数字が異なる記載がある。この点筆者がスペイン内務省に問いあわせたところ，当該ページの数値が確定したものであるとの回答を得た。

まず際立つのは，（ア）投票率がほぼ横這いである点，（イ）IU[15]及び地域主義政党のほとんどが議席を失う一方，二大政党がいずれも5議席ずつ伸ばし，二大政党体制が強化された点，（ウ）PSOEはPPと同じ5議席を上乗せしつつも，得票率の差（PSOE: ＋1.05%／PP: ＋2.40%）が異なる点である。これを踏まえ，以下「左派浮動層仮説」について検証する。

まず，同仮説のうち「左派浮動層」の有権者数に関する仮説に関して，モリーナスと同様全国レベルでの概算を試みる。まず，04年選挙では，「左派浮動層」は約200万票，「中道層」は約60万票であった。今回総選挙では，PSOE及びIUの合計得票数は282,680票減，PPは406,829票増である。

モリーナスに従い，この左派政党が失った約28万票，及びPPが上乗せした約40万票が，それぞれ「左派浮動層」及び「中道層」に対応すると仮定すれば，各々の有権者数を以下のように見積もることができよう。

	「左派浮動層」	「中道層」
08年総選挙前の有権者数	200万	60万
08年総選挙での増減	－28万	＋40万
08年総選挙における有権者数	172万	100万

表4. モリーナスによる「左派浮動層」と「中道層」の数の増減概算

恐らく，モリーナスが「左派浮動層」を「決定的」とするのは，「中道層」に比して「左派浮動層」有権者が3倍以上存在することによる。表4.の通り，08年総選挙の結果2つの層の有権者数は接近しており，その「決定力」は衰えている。

次に，投票率に関する4つの相関関係に関して，③及び④は，いずれも08年総選挙において前提条件を満たさない。また②についても，08年総選挙のデータを付加することで，投票率とPPの得票率の間に新たな，かつ特筆すべき相関関係が突如出現する可能性は考えにくく，対象外とする。

残る①について，2つの相関関係からなるが，まず，1つ目の「IUの得票率が1%上がればPSOEの得票率が1%下がる」との相関関係に関して，これを両党得票率におけるゼロサム関係と置き換えれば，PSOEが1.05%上昇する一方，IUは1.16%下げており，概ね妥当する。

2つ目の「選挙における投票率が1%上がれば，PSOEの得票率が0.6%上がる」との命題について，まず，上記（ア）の通り，全国の投票率はほぼ横這いである。投票率がほぼ同じであれば，PSOE及びIUの合計得票率も同様に横這いでなくてはならないが，実際に，04年の47.55%から08年の47.44%と，これもほぼ横這いであることから，この命題は，現在も妥当するように見える。以上，全国レベルでの検証結果は以下の通りとなる。

- 「左派浮動層」の有権者数は減少（約200万⇒約170万）し，その分「決定力」は後退している
- 得票率に関する相関関係（PSOEとIUの得票率上のゼロサム関係，及び投票率とPSOEの得票率の関係）は，少なくとも見かけ上は，08年総選挙でも観察しうる

15　IUは独自会派形成に必要な5議席に満たず，ジャマサーレス代表は，総選挙当日深夜の記者会見にて，次期党大会に代表として不出馬の意を表明した。

「左派浮動層」の中では，IU の票が PSOE に流れたとの推測も成り立つが，下院の比例代表区が全国区ではない以上，次項の選挙区ごとの分析を要する。選挙区別結果の分析結果がこれを支持しなければ，この相関関係は見かけ上に過ぎない。

（3） 2008 年総選挙結果（選挙区）

モリーナスの論説は，08 年総選挙前後の報道等で「統計的に根拠づけられた勝敗ラインを明確に示したもの」として，『エル・パイス』紙以外でもしばしば取り上げられた[16]。その結果，総選挙に前後して，以下のような言説が目立つようになった。

- 「左派浮動層」が総選挙の帰趨を左右する，スペインにおいて最も重要な有権者層である
- 従って，投票率が上がれば上がる程，左派（特に PSOE）は勝利に近づく
- 投票率が 70 数% を超えれば，概ね PSOE の勝利は確実である[17]
- この仮説，及び今回総選挙結果がその通りとなったことは，「スペインが中道左派的傾向の極めて優勢な国家」であることの証左である[18]

本来，モリーナスの「左派浮動層仮説」は，全国レベルでの数値を元に得られたものである。しかし，モリーナスの論説を超え，特に「高い投票率は PSOE に有利」との命題が，その後いわば「一人歩き」をし始めた。また，モリーナスも積極的にそれに反論する様子はない[19]。モリーナスは論説にて選挙区レベルの数値には全く言及していないが，もしその命題が妥当するのであれば，各選挙区の特殊事情を加味の上，選挙区別結果においても，ほぼ同じことが言えるはずである。

しかし，結論から言えば，選挙区レベルで同仮説はほとんど説明能力を持たない。

以下，04 年総選挙に比して政党間の議席配分の変動がない選挙区は対象外とし，それ以外の選挙区を，

（イ）地域主義が存在しない，もしくは弱い選挙区

（ロ）地域主義が強い自治州の選挙区（カタルーニャとバスク[20]）

（ハ）人口の増減により定数が変わった選挙区

（ニ）その他議席配分が変わった選挙区

の 4 つに分けて観察する。

---

16 例えば，ラジオ局カデナ・セール（聴取者占有率 2007 年国内 1 位）のニュース（http://www.cadenaser.com/espana/articulo/psoe-aumenta-ventaja-puntos/csrcsrpor/20080302csrcsrnac_4/Tes）等。

17 数字には諸説あるが，70% 台前半がほとんど。モリーナスの 71% という数字に対し，選挙分析の専門家やジャーナリストによる別の勝敗ラインもあった。

18 例えば，総選挙翌日 3 月 10 日，スペイン国営放送（TVE）のテレビ番組「Los Desayunos」における，『エル・パイス』論説委員ホアキン・エステファニーアの発言。左派系有識者に多い。

19 モリーナスが，研究者ではなく選挙コンサルタントであること，また，その論説が掲載されたのが比較的与党 PSOE に近い『エル・パイス』紙であることは留意されてよい。さらに，モリーナスは本文で「左派浮動層仮説」を「理論」と呼んでいる。これに対し，バレイロが同じ『エル・パイス』紙上にて「理論の名に値しない」と論駁している（“El centro decide las elecciones en España”, *El País*, 06 de diciembre de 2007, p. 35）。

20 カタルーニャとバスクを特に取り出すのは，両自治州における総選挙での投票行動（過去も含む），及び前回に比した今回総選挙における議席配分の変化が他の自治州に比べて大きく異なり，今回総選挙結果に最も大きな影響を及ぼした要素の一つであること，他の地域主義が顕著な自治州内の選挙区において議席が変動していない（（ニ）で取り上げるものは除く）ことによる。

（イ） 地域主義が存在しない，あるいは弱い選挙区

（ｉ） マドリード自治州

マドリード: 定数 35	2008			2004		
投票率（%）			80.84			78.93
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PP	1,723,370	49.34	18	1,576,636	45.02	17
PSOE	1,377,996	39.45	15	1,544,676	44.11	16
IU	163,633	4.69	1	225,109	6.43	2
団結・進歩・民主	131,242	3.76	1	（08 年からの新党）		
（左派政党合計）	1,672,871	47.90	17	1,769,785	50.54	18

表 5-1. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（マドリード）

選挙前の話題の一つであった新党「団結・進歩・民主（Unión, Progreso y Democracia: UPyD）」が，今回総選挙で唯一の議席を獲得した選挙区である。同党は，本来 PSOE の欧州議員であり，00 年同党党大会でサパテロと書記長の座を争ったロサ・ディエス（バスク自治州出身）が，サパテロ政権の主に ETA 対策を批判して離党の上，「真の左派政党」を目指すとして新設したものである。本稿の用語としては，「左派政党」に含まれるものとする。投票率は約 2% 増の一方，PP が 1 議席を伸ばし，左派政党（PSOE，IU，UPyD）が 3 党合計で 1 議席減らしている（18 議席⇒17 議席）。

（ii） アンダルシア自治州

アンダルシアは伝統的に PSOE の勢力が強い。ゴンサレス元首相の地元で，自治州議会では 20 余年に亘って PSOE 政権が続いている。今回，アンダルシア自治州議会選挙が総選挙と同日開催されているが，多少の議席減はありながら，自治州議会での絶対多数を引き続き確保した。

自治州全体の投票率ではほぼ 1% 減（74.77%⇒73.78%）で，全体として PP が PSOE から 2 議席を奪っている。投票率及び得票数の点で，PSOE はごく微減で留まっている一方，PP は 20 万票近くを伸ばし，IU 及びアンダルシア主義連合（地域主義政党）が各々約 6 万票，約 12 万票を失っている。ここでも，「左派浮動層仮説」は妥当していない。

アンダルシア自治州で議席が変動した選挙区は，全 8 選挙区中アルメリア，カディス，コルドバ，マラガの 4 つである。

アルメリア: 定数 6	2008			2004		
投票率（%）			74.75			71.94
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSOE	131,131	41.23	3	145,868	47.69	3
PP	161,366	50.73	3	135,434	44.28	2
IU	8,662	2.72	0	9,522	3.11	0
（左派政党合計）	139,793	43.95	3	155,390	50.80	3

表 5-2. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（アルメリア）

人口増により定数が 1 名増となった。投票率は 3% 弱上がっているが，PSOE が得票数を減らす一方，人口増分の 1 議席を PP が獲得している。

カディス: 定数 9	2008			2004		
投票率（%）			68.26			69.91
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSOE	326,133	51.03	5	326,152	50.67	6
PP	244,844	38.31	4	216,416	33.62	3
IU	30,838	4.83	0	38,611	6.00	0
（左派政党合計）	356,971	55.86	5	364,763	56.67	6

表 5-3. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（カディス）

投票率は減ったが，PSOE の得票率は微増である。また，PP が PSOE の 1 議席を奪取している。

コルドバ: 定数 7⇒6	2008			2004		
投票率（%）			76.81			78.51
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSOE	243,959	50.71	4	246,324	49.86	4
PP	181,512	37.73	2	166,665	37.74	3
IU	33,912	7.05	0	47,908	9.70	0
（左派政党合計）	277,871	57.76	4	294,232	59.56	4

表 5-4. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（コルドバ）

人口減により 1 議席が減少している。投票率は 1.7% 減だが，PP が人口減少の 1 議席を失う形となっている。

マラガ: 定数 10	2008			2004		
投票率（%）			72.47			71.90
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSOE	353,363	46.73	5	367,758	49.77	6
PP	326,721	43.21	5	269,063	36.41	4
IU	57,913	5.40	0	73,344	6.68	0
（左派政党合計）	411,276	52.13	5	441,102	56.45	6

表 5-5. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（マラガ）

投票率はごく微増だが，PSOE は得票率を微減させ，PP が PSOE の 1 議席を奪取している。

自治州レベルではともかく，以上 4 選挙区では「投票率が上がると PSOE に有利」と言う命題は該当しない。

（iii） バレンシア自治州

PP 優位の地域である。自治州全体の情勢としては，投票率は 2% 近く増える中，人口増分の 1 議席及びバレンシア左派連合（地域主義政党を含む左派諸党連合）が失った 1 議席を PP が奪っている。

同自治州の 3 選挙区のうち，議席が変動したのは以下の 2 選挙区だが，いずれも「投票率増，左派の議席減」と「左派浮動層仮説」とは逆の傾向を示している。

バレンシア: 定数 16	2008			2004		
投票率（%）			80.02			77.68
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PP	767,504	51.74	9	665,526	45.75	8
PSOE	594,273	40.07	7	613,833	42.19	7
バレンシア左派連合	46,437	3.13	0	78,515	5.40	1
（左派政党合計）	640,710	43.20	7	692,348	47.59	8

表 5-6. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（バレンシア）

自治州全体と同じく，投票率が 2% 増える一方，バレンシア左派連合（IU と ERC の連合政党）と PSOE が等しく得票数を減らし，PP がバレンシア左派連合の 1 議席を奪っている。

アリカンテ: 定数 11⇒12	2008			2004		
投票率（%）			79.47			77.52
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PP	488,323	52.57	7	434,812	48.88	6
PSOE	380,305	40.94	5	374,631	42.12	5
バレンシア左派連合	20,796	2.26	0	34,774	3.91	0
（左派政党合計）	401,101	43.20	5	409,405	46.03	5

表 5-7. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（アリカンテ）

アリカンテも，2% の投票率増の一方人口増分の 1 議席を PP が奪っている。

（ⅳ） ムルシア自治州

単一選挙区自治州で，バレンシアと同じく PP の地盤である。投票率が 3% 伸びる中，人口増分の 1 議席を PP が得ている。

ムルシア: 定数 9⇒10	2008			2004		
投票率（%）			80.46			77.06
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PP	467,467	61.43	7	413,902	57.42	6
PSOE	247,858	32.57	3	252,246	35.00	3
IU	22,322	2.93	0	30,787	4.27	0
（左派政党合計）	270,180	35.50	3	283,033	39.27	3

表 5-8. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（ムルシア）

（ロ） 地域主義が強い自治州の選挙区

いずれも，PSOE，PP，IU の全国政党 3 党の他，各地域の地域主義政党が大きな勢力を持つ。各地域主義政党における地域主義の「強硬―穏健」の軸，及び政治イデオロギー上の「右―左」の軸を基準とし，多様な政党が存在する。

（ｉ） カタルーニャ自治州

政党間の議席の出入りが最も多かった自治州である。勢力の大きな地域主義政党は，CiU（自治州議会第１党），ERC（同第３党[21]）の２つだが，前者が１議席を増やしている一方，後者は８議席から３議席と大幅に減らしている[22]。

また，IU 系のカタルーニャ・イニシアティブ（ICV）が２議席から１議席と半減あるいはそれ以上の勢力減となった[23]。左派及び民族主義が６議席減らす一方，PSOE は４議席，CiU は１議席，PP は１議席と配分されている。自治州レベルでの投票率は 75.96% から 71.19% と約 4.8% 落ち込んでおり，ここでも「左派浮動層仮説」に反する傾向を示している。また，CiU は得票数を減らしながら１議席を増したのは，各選挙区における CiU 投票者及び投票率減を，比例代表制ドント式が「救い出した」ことが原因であろう。

カタルーニャ自治州では，全４選挙区で議席が変動している。

バルセロナ: 定数 31	2008			2004		
投票率（%）			71.57			76.17
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
カタルーニャ社会党（PSC: PSOE系）	1,295,940	46.72	16	1,268,028	41.66	14
CiU	544,151	19.62	7	586,854	19.28	6
PP	466,345	16.81	5	485,504	15.95	5
ERC	183,538	6.62	2	428,986	14.09	4
ICV	154,399	5.57	1	198,116	6.51	2
（左派政党合計）	1,450,339	52.29	17	1,466,144	48.17	16

表 5-9. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（バルセロナ）

バルセロナでは，CiU が得票数を減らす一方，議席を増やしている。ERC が約 57% 減と惨敗したのは，同党支持者の棄権に大きな原因があるとされる[24]。

ジローナ: 定数 6	2008			2004		
投票率（%）			69.44			76.03
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSC	131,008	39.51	3	113,089	31.62	2
CiU	90,379	27.26	2	96,928	27.10	2
ERC	43,829	13.22	1	83,482	23.34	2
ICV	10,627	3.20	0	15,070	0.51	0
（左派政党合計）	141,635	42.71	3	128,159	32.13	2

表 5-10. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（ジローナ）

21　PSC，ICV とともに自治州議会与党。

22　この原因分析については，CIS が毎回総選挙後に公表する「選挙後世論調査」の結果を詳細に分析すべきである。

23　ERC も，IU と同様，下院における独自会派を失い，カロド・ルビラ党首が総選挙のおよそ２週間後，実質上の党首辞任表明を行った。

24　総選挙翌日３月 10 日の記者会見における，カロド・ルビラ党首の発言。

タラゴーナ: 定数 6	2008			2004		
投票率（%）			70.51			74.88
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSC	167,959	44.87	4	136,660	35.49	3
CiU	79,274	21.18	1	82,954	21.55	1
PP	66,571	17.78	1	65,528	17.02	1
ERC	35,260	9.42	0	76,330	19.83	1
ICV	11,343	3.03	0	14,694	3.82	0
（左派政党合計）	179,302	47.90	4	151,354	39.31	3

表 5-11. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（タラゴーナ）

ジローナ，タラゴーナ両選挙区では，投票率が大きく落ち込む中，PSC が ERC から 1 議席を奪っている。また，得票数を伸ばしている。

リェイダ: 定数 4	2008			2004		
投票率（%）			70.32			74.99
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSC	77,870	36.99	2	68,971	29.57	2
CiU	60,513	28.75	1	68,735	29.46	1
PP	31,721	15.07	1	34,116	14.62	0
ERC	27,300	12.97	0	50,104	21.48	1
ICV	5,384	2.56	0	6,910	2.96	0
（左派政党合計）	83,254	39.55	2	75,881	32.53	2

表 5-12. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（リェイダ）

リェイダでは，カタルーニャでは人気がないとされている PP が，ERC が喪失した 1 議席を新たに獲得している。得票数を見ると，得票数を伸ばしているのは PSC のみで，ERC 及び ICV，さらに CiU の票の一部が流れたものと推測される。

（ii） バスク自治州

カタルーニャと同じく，政党間の勢力分布が大きく変わった。バスク社会党（PSE: PSOE 系）は民主主義体制成立後初めて全 3 選挙区で第 1 党となった[25]。投票率は約 10% 近く落ち込んでおり，これには投票 2 日前の ETA によるギプスコア県モンドラゴン（バスク語: アラサーテ）市議会元議員のイサイーアス・カラスコ氏（PSE）の射殺事件が大きく影響しているとされる。

議席が変動したのは以下の 2 選挙区である。

25　2009 年 3 月に実施されたバスク州議会選挙では，従来長期に亘り自治州政権を維持してきた PNV が相対第一党となったが，第二党の PSE が，右派 PP と連合の上，PNV を州政権から引きずりおろした。これは，それまでの州知事イバレチェ主導のバスク民族主義を前面に押し出した戦略が裏目に出たものであるとの見解がある。詳細は本稿 pp. 15-16 に述べる。

ギプスコア: 定数 6	2008			2004		
投票率（%）			58.18			72.55
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSE	125,659	38.90	3	98,100	26.31	2
PNV	76,891	23.80	2	115,402	30.96	2
PP	46,982	14.54	1	56,904	15.26	1
バスク連帯党（EA）	25,352	7.85	0	42,971	11.53	1
アララール（民族主義左派）	17,193	5.32	0	22,352	6.00	0
IU	15,656	4.85	0	28,668	7.69	0
（左派政党合計）	141,315	43.75	3	126,768	34.00	2

表 5-13. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（ギプスコア）

ギプスコアは射殺事件が起きた選挙区であり，それを反映してか，バスクの 3 選挙区中投票率の減少幅が最大である[26]。PNV，及び表からは省略したがその他地域主義政党は，いずれも大幅減である。これに対し，PSE は約 25% 得票を増やし，1 議席増の 3 議席を獲得した。

ビスカヤ: 定数 9⇒8	2008			2004		
投票率（%）			67.51			75.83
政党	得票数	得票率（%）	議席数	得票数	得票率（%）	議席数
PSE	230,728	36.95	4	185,514	26.76	3
PNV	194,511	31.15	3	258,488	37.29	4
PP	114,783	18.38	1	129,889	18.74	2
IU	27,374	4.38	0	59,493	8.58	0
（左派政党合計）	258,102	41.33	4	245,007	35.34	3

表 5-14. 2008 年及び 2004 年スペイン総選挙結果（ビスカヤ）

PP は得票率・得票数ともに微減に留まったが，定数減により 1 議席を失った。

（ハ） 人口の増減により定数が変わった選挙区

全国で 8 選挙区存在する。内訳として，人口増により 1 議席増加となったのがアルメリア，ムルシア，アリカンテ，トレドの 4 選挙区である。このうち，今までに触れていないのはトレド（カスティージャ・ラ・マンチャ自治州）で，定数は新たに 6 議席となった。これまでは PP が 3 議席，PSOE が 2 議席であったが，得票数の面では第 3 位の IU を大きく引き離している。人口増分の 1 議席は得票数第二党の PSOE が得た。

他方，人口減で 1 議席減となったのも 4 選挙区（コルドバ，ビスカヤ，ソリア，ア・コルーニャ）である。その内ソリア（カスティージャ・イ・レオン自治州，定数 3⇒2）は，PSOE と PP が二大勢力で拮抗しており，人口減の 1 議席は第 1 党の PP が蒙った。ア・コルーニャ（ガリシア自治州，定数 9⇒8）では，投票率が約 3.5% 増加する一方，人口減で得票数第 2 位の PSOE が 1 議席を減らした。

26 ETA 及び ETA 政治フロントとされる 2 政党（バスク民族主義行動党（ANV）及びバスク共産党（PCTV））は，総選挙に際し棄権を呼びかけていた。暗殺事件後，その 2 党を除く全政党は（特に犠牲者のカラスコ氏が属したバスク社会党及び PSOE は最も積極的に），ETA への抗議の意を投票行動で表すよう呼びかけた。他方，バスク自治州全体の大幅投票率減の「恩恵」を最も被っているとも解釈しうるのは，バスク社会党である。

（ニ） その他議席配分が変わった選挙区

サラゴサ（アラゴン自治州），ラス・パルマス（カナリアス自治州），シウダ・レアル（カスティージャ・ラ・マンチャ自治州），オウレンセ（ガリシア自治州）の 4 選挙区である。

このうち，サラゴサ及びラス・パルマスでは，投票率が微減（1% 以下），及び弱小地域主義政党が各選挙区で保持していた 1 議席をいずれも喪失し，それが PSOE に流れている点が共通している。他方，シウダ・レアル（定数 5）では，PSOE と PP が全投票中約 95% を占め，両党がいずれも 47% に前後して拮抗する中，前回の約 4700 票差を逆転して PP が 3 議席，PSOE が 2 議席となった。

（ホ） 分　析

以上の選挙区ごとの観察から，幾つかの指摘ができる。第一に，以下の表 6. は，政党間で議席の変動があった 21 選挙区における，左派政党（PSOE と IU）の合計得票率，同得票数及び同議席数の一覧である。

		合計	左派政党得票率		左派政党得票数		左派政党議席数	
			上昇	下降	上昇	下降	上昇	下降
選挙区投票率	上昇	11	1	10	1	10	1	10
	下降	10	7	3	6	4	7	3
議席が変動した選挙区		21	8	13	7	14	8	13

表 6. 左派政党の動き（単位: 選挙区）

投票率が上昇した 11 選挙区中，左派政党の得票率が上昇しているのは 1 選挙区である。モリーナスの相関関係①は投票率と得票率のみに言及しているが，本稿の関心である「左派浮動層仮説」は，議席の変動が起きた選挙区では妥当しないことが分かる。得票数及び議席数に関しても同様である。

なお，投票率が上昇しかつ左派政党が得票率及び得票数で伸びているのはソリア選挙区で，投票率が上昇しかつ左派政党が議席数で伸びているのはトレドだが，いずれも人口増減により変動した定数分（いずれも 1 議席）が動いている。ソリアでは人口減の 1 議席を PP が減らし，トレドでは人口増の 1 議席を PSOE が得ている。

以上に関し，第一に，表 6. では議席が変動していない残りの 31 選挙区を割愛したが，全選挙区を対象とした場合，表 6. のような「10 対 1」という極端な数字ではないにしても，「投票率と左派政党が等しく上昇」の傾向にある選挙区は少ない。少なくとも，議席には反映されていない。第二に，左派政党には地域主義政党でかつ政治イデオロギーとしては左派の政党は含まれていない（バレンシア等，IU と連合を組み統一左派連合政党として登録されている場合は除く）。カタルーニャとバスクの各選挙区を見れば分かる通り，議席変動無しの選挙区も含め，ほぼ全選挙区で左派地域主義政党が勢力を落としていることから，上記分析を覆すことはないだろう。

分析の第二点目として，表 7. は PSOE 及び PP を個別に見た場合の議席数増減をまとめたものである。

	PSOE		PP	
	増	減	増	減
人口増減	1	1	3	2
地域主義政党あるいは左派政党	7	0	2	0
相手政党[27]	2	4	4	2
合計	10	5	9	4
差し引き		+5		+5

表 7. PSOE 及び PP の議席数増減とその内訳

PSOE に関して，第一に，増分 10 議席のうち，7 議席が地域主義政党及び左派政党の議席減と対応している。この点から，全国レベルにおける PSOE 勝利及び前回比議席増の多くは，地域主義政党及び他の左派政党の後退に負っているとの解釈が成立する。

この地域主義政党及び IU 等の退潮に関し，総選挙直後のスペインの全国規模のマスコミでは，右派の地域主義政党も含め，「従来の主張をより強硬な方向へ傾けた政党が退潮している」との論調が主体であった[28]。IU は選挙戦中，「IU，さらに左へ（Izquierda Unida, más izquierda）」をスローガンに，過去 4 年間の PSOE との緩慢な協力関係を維持しつつも，それを軸に PSOE の政策に更なる「左旋回」を強いるとの戦略をとったが，それが裏目に出たとの解釈である。マドリードでは得票率約 30% 減（全国では約 25% 減）となった。カタルーニャ自治州では，従来の 8 議席から 5 議席を失った ERC に対し，同じカタルーニャ地域主義政党でも，CiU は 1 議席を増やしている（得票数は減）。これには，「リーダー及び党に対するイメージが大きく左右する」と言われる比例代表制にあって，同党の選挙戦の指揮に当たったドゥラン幹事長（下院議員）の存在を特筆すべきかもしれない。同党のマス党首にカタルーニャ「民族」を称揚する発言が目立つ[29]のに比べ，ドゥランはマドリードにも足を伸ばしてテレビやラジオから PSOE と PP の強硬な対立姿勢を批判して「合意と対話」を呼びかけるとともに，「国家感覚」への立ち返りを主張する等，地域主義色を薄めたメッセージが目立った[30]。ERC については，2007 年に何度か発生した，国王夫妻の肖像写真焼却事件に関し，同党所属のカタルーニャ自治州議会議員が関与を認めるなど，同党のイメージは強硬さを強めており，それを嫌った同党支持者の棄権を招いたとの推測がある[31]。

他方バスク自治州では，PNV が 1 議席を減らしている。同党のイバレチェ州知事は，2008 年 10

27 PSOE なら PP，PP なら PSOE という意味である。

28 例えば，左派系では “Zapatero repite Victoria con más fuerza”, *El País*, 10 de marzo de 2008, p. 10，右派系では “Bipartidismo reforzado, pero con los nacionalistas situados de nuevo en la clave de la gobernabilidad”, *ABC*, 10 de marzo de 2008, p. 10 等を参照。

29 例えば，マス党首がカタルーニャの「自決権」を主張した演説について，“Mas reclama el ‘derecho a decidir’ como base para refundar el catalanismo”, *La Vanguardia*, 20 de noviembre de 2008（http://www.lavanguardia.es/premium/publica/publica?COMPID=53412859489&ID_PAGINA=22088&ID_FORMATO=9&turbo=false）を参照。

30 “Duran responde a Pujol y a Zapatero ‘Sí, estamos dispuestos a gobernar España’”, *La Vanguardia*, 8 de febrero de 2008（http://wwwlavanguardia.es/lv24h/20080208/53433972218.html）.

31 ERC はその「火消し」につとめた。“ERC sanciona a un diputado por ausentarse en una votación sobre los símbolos del Estado”, *El Mundo*, 03 de octubre de 2007（http://www.elmundo.es/elmundo/2007/10/03/espana/1191441097.html）

月に，法的拘束力を持たない州民投票を実施し，バスクの自治の将来について州民の意見を問うとの州民投票構想[32]を公にし，サパテロ首相始め中央政界の大きな批判を呼んだ[33]。また，イバレチェ州知事によるこのようなバスク自治拡大のイニシアティブが世に出るのに前後し，同党で「穏健派」「対話重視」とのイメージを維持しているイマス党首が，党内闘争に敗れる形で辞任した[34]。このような事情も，ERC と同じく同党のイメージ悪化に貢献したとの推測は成り立つ。また，PNV よりさらに民族主義的主張の強い EA は，唯一の下院議席を失っている。

表 7. に関する二点目に，PSOE は PP から 2 議席奪う一方，少なくとも 4 議席奪われている。つまり PSOE が失ったのは 5 議席で，その 8 割が PP に奪われたものと解釈できる。その内訳は，2 議席はアンダルシア自治州の選挙区，1 議席はマドリード，もう 1 議席はシウダ・レアルである[35]。激戦区のシウダ・レアルは先述の通りだが，マドリードに関しては，PSOE マドリード支部の指導力不足が指摘されている[36]。アンダルシアの 2 選挙区に関しては，いずれもアンダルシア自治州議会及び政府における PSOE 長期政権との関連が指摘される[37]。

PP については，先述の指摘の裏返しになるが，4 議席を PSOE から奪っている点が興味深い。また，議席を伸ばしている 9 選挙区中，4 選挙区 4 議席は PP が伝統的に強い地域に当たる（マドリード，バレンシア，アリカンテ，ムルシア）。PP が既存の支持層を固めるか，さらに伸ばしたとの推測の余地は十分にある。また，PSOE に奪われた 2 議席は，ビスカヤとオウレンセの 1 議席ずつである。バスク自治州であるビスカヤについては，ETA による元市議射殺事件による「同情票」の観点からの説明，及び地域主義政党の後退と比例代表制を PSE（バスク社会党，PSOE 系）が利したという説明が可能である。オウレンセについて，ガリシア自治州 4 選挙区全体で PP は得票数を概ね 1 割前後減らしており，PP ガリシア支部の指導力不足が指摘された[38]。

（4） 2008 年総選挙における投票行動

以上，全国区及び選挙区ごとの結果を合わせ，今回総選挙におけるスペイン有権者の投票行動を推測するなら，以下の通りとなろう。

まず，「左派浮動層」の「決定力」は，仮にそのようなものが存在したとしても，今回総選挙にお

---

32 “Ibarretxe propone una consulta en el País Vasco el 25 de octubre de 2008”, *El Mundo*, 28 de septiembre de 2007（http://www.elmundo.es/elmundo/2007/09/28/espana/1190972019.html）

33 “Zapatero: ‘Ibarretxe se equivoca de país, de continente y de siglo’”, *El Mundo*, 30 de septiembre de 2007（http://www.elmundo.es/elmundo/2007/09/30/espana/1191155608.html）

34 Javier Lafuente, “La derrota de Imaz”, *El País*, 29 de septiembre de 2007（http://www.elpais.com/articulo/espana/Imaz/reclama/respaldo/PNV/Urkullu/defiende/pactismo/elpepiesp/20071126elpepinac_3/Tes）

35 余談だが，その 4 議席のある 4 選挙区のうち，3 選挙区でサパテロ政権閣僚が比例代表リスト第 1 位である。マドリード（サパテロ首相），マラガ（ソルベス第二副首相），カディス（ルバルカバ内務大臣）の 3 選挙区。

36 “Cuestionamiento del liderazgo de Tomás Gómez”, *Público*, 22 de marzo de 2008（http://www.publico.es/espana/politica/061920/tomasgomez）

37 “El PSOE pierde dos escaños”, *El País*, 10 de marzo de 2008（http://www.elpais.com/articulo/espana/PSOE/pierde/escanos/elpepiesp/20080310 elpepinac_20/Tes）

38 “El PP mantiene el liderazgo en Galicia, pero el PSOE se acerca a cinco a puntos”, *La Voz de Galicia*, 10 de marzo de 2008（http://www.lavozdegalicia.es/especiales 2008/elecciones/2008/03/10/0003_6639990.htm）ただしその後実施されたガリシア州議会選挙（2009 年 3 月）では，PP がガリシア州政権を奪還している。

いて減少したと言わざるを得ない。「左派浮動層仮説」が幅を利かせてきた影響もあってか，スペインにおける「左派ではない」中間浮動層（モリーナスの言う「中道層」にほぼ相当しよう）の投票行動に関する研究は，比較的薄かったのではないか。今後の展開が待たれる。

次に，PSOE 及び PP の二大政党が各々5 議席を増加する一方，IU 及び ERC，EA 等比較的「強硬化した」少数政党が退潮したことに関し，選挙区レベルで見た際以下のことが言える。PSOE は，「強硬化した」地域主義政党，及び他の左派政党（一部地域主義政党と重なる）が失った 7 議席を埋めている。他方，PP が今回新たに得た 9 議席中，4 議席は PSOE の失った議席である。全国区レベルで観察した「左派浮動層」の票の動き（「左派浮動層」: 約 200 万票⇒約 170 万票）をも考え合わせるに，PSOE に関しては，地域主義ではない左派の有権者の支持を一部失ったが，地域主義的傾向の強い政党の「勇み足」を原因とする勢力減の恩恵によりそれを補って余りあった，との解釈が可能であろう。他方 PP は，自党の支持層を固めて，既存の PSOE 支持層のうち最も右寄りの一部（及び地域主義政党支持者）を切り崩して議席増に繋げたと読むこともできよう。

モリーナスの論説では，PP の勝利は可能だが，左派浮動層を含めた左派支持層の切り崩しが必要不可欠とされている。「左派浮動層仮説」の当否はともかく，もし上記の筆者の解釈が正しければ，その点で PP は一定の成功を収めたのではないか。

無論，少数政党に不利とされるスペインの選挙制度の存在を忘れてはならない。例えば，3 議席減の 2 議席となった IU の全国総得票数は，概ね現状を維持した CiU より多い。

（5） 総選挙後の動き

議席を増やしたとはいえ，PP が第二党に甘んじたことに変わりはない。これに関し，今回総選挙後のスペインの右派寄り各紙は，その原因をラホイ総裁のリーダーシップ不足に帰し，総裁交替論を論説として掲載した[39]。PP 執行部は「敗北」を認めつつも，5 議席増及び党史上最大の得票数を成果として強調し，ラホイ総裁は総選挙後続投の意思を表明し，現在もその地位にある。他方，PP の対 PSOE 強硬化路線には限界があるとの指摘は選挙前からあり，ある程度の路線転換はやむを得ないとされる[40]。実際，総裁以外の執行部人事は強硬派色を薄める方向で刷新された[41]。

一方の与党 PSOE は，この 4 年間の成果により政権が再び信任を得たものとして相対第一党獲得を祝福していた。左派系各紙も同様の論旨であった[42]。しかし今回の「勝利」の裏に，上記の如く地域主義色の強い政党の失点に救われた面，PP に少なからず勢力を切り崩された面があるなら，PP との対立的雰囲気の醸成も含め，党として一定の戦略見直しを迫られざるを得ないだろう[43]。

---

39 例えば，右派寄り最大の全国紙『エル・ムンド』による，選挙翌日の社説。“Zapatero obtiene un mandato claro para gobernar de otra manera”, *El Mundo*, 10 de marzo de 2008, p. 5。

40 例えば，Julián Santamaría Ossorio, “¿Es rentable la crispación?”, *La Vanguardia*, 21 de enero de 2007（http://www.iceta.org/js 210107.pdf）。

41 3 月 31 日の党全国執行委員会で，党内強硬派の重要人物と目されるサプラナ下院議員会長に代わり，党地方自治担当執行委員で穏健派のサエンス・デ・サンタマリアが就任した。

42 “Segunda oportunidad”, *El País*, 10 de marzo de 2008, p. 38, あるいは “El triunfo de optimismo y de la ambicion《decente》”, *Publico*, 10 de marzo de 2008, p. 10 を参照。

43 Julián Santamaría Ossorio, “Rendimientos políticos y electorales”, *La Vanguardia*, 16 de marzo de 2008（http://www.lavanguardia.es/premium/publica?COMPID＝5342357969 &ID_PAGINA＝22068&ID FORMATO ＝9 &turbourl＝false）

2. 二大政党と地域主義政党

ここまで，スペインの 2008 年総選挙を，投票行動から解釈する「左派浮動層仮説」を検証した。以下では，スペイン総選挙における長期的趨勢の析出を試みたい。それにあたって，さしあたり，オカーニャとオニャーテ（以下,「両者」とする）が，民主化後の全総選挙を対象として行った計量分析指標を参照点としたい。両者の指標は以下の 6 つである[44]。

①断片化指数[45]及び有効政党数

②第一党及び第二党への集中度（得票及び議席占有率）

③第一党及び第二党間の競合度（得票及び議席占有率の差）

④イデオロギー上の分極性（左から右の距離）

⑤浮動性（連続する 2 つの総選挙間のブロック（イデオロギー等）間変動）

⑥地域主義（ある地域（全国，自治州，選挙区）での地域主義政党の占有度）

両者によれば，この 6 つの指標から見た際，77 年以降の総選挙は以下の 3 つの時期に分けられる。

第 1 期: 77 年及び 79 年総選挙（穏健な多党制[46]）

第 2 期: 82 年，86 年，89 年総選挙（優位政党（PSOE）のある多党制）

第 3 期: 93 年以降（二大政党＋地域主義政党）

両者の分析の範囲が全国，自治州，選挙区に亘っていること，及び紙幅の関係もあり，08 年総選挙も含めた正確な判定は両者に任せるよりないが，以下にその計測結果を一部再現の上，08 年総選挙結果を加えて，全国レベルでの長期的傾向を見る。

まず，指標①，②，⑥は,「二大政党体制の強化，その裏返しとしての強硬化した少数政党の後退」に等しく関係する。ここでは指標②を挙げておく。

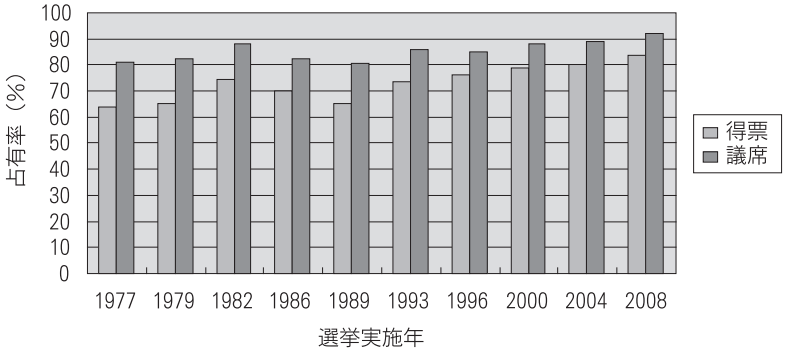

図 1. 総選挙第一党及び第二党による得票及び議席占有率合計

44 Francisco A. Ocaña y Pablo Oñate, “Las arenas electorales en España y la normalidad de la convocatoria de marzo de 2004”, en *Elecciones y comportamiento electoral en la España multivnivel*, Madrid, CIS, 2006, pp. 23-75.

45 レアによる有名な断片化指数は，（1－（各党得票率の 2 乗の総和））によって得られる。完全な二党制で 0.5，一党独裁の場合 0 となる。Ocaña y Oñate, *op. cit.* p. 31 において，両者は得票率に加え議席占有率でも同様の測定を実施している。指標②，③についても同様。

46 Ocaña y Oñate, *op. cit.* が「穏健な多党制」と判定した際の準拠点はサルトーリ（Giovanni Sartori, *Parties and Party Systems: A Framework for Analysis*, Cambridge University Press, 1976）である。

96 年に議席面で若干の落ち込みが見られるが，08 年も含め，基本的には右肩上がりとなっており，93 年以降は「二大政党の拡大と少数政党の後退」の趨勢が観察できる。指標①についても，有効政党数は減少している以上，厳密な計算をするまでもなく，断片化指数は前回に比して 0.5 に近づき収斂化の傾向を示すであろうことは予想に難くない。また，指標⑥は，全国レベルでもさることながら，自治州，特にカタルーニャ及びバスクにおける地域主義政党の後退が観察されよう。

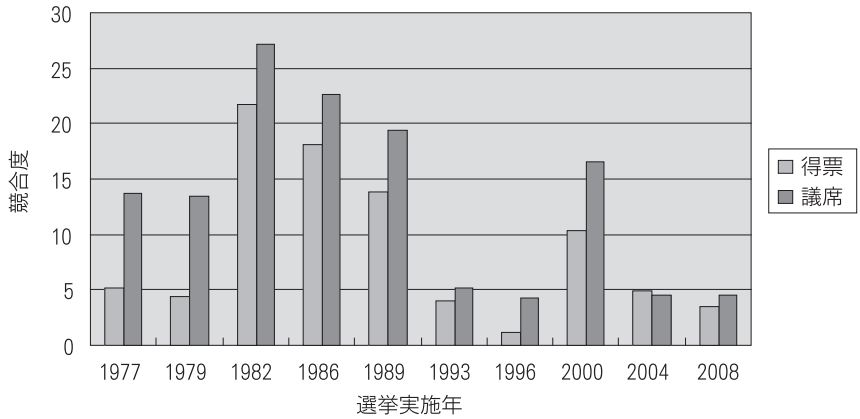

図 2. 第一党及び第二党間の競合度

次に，①，②，⑥と同様第一党と第二党にのみ焦点を当て，かつ第一党と第二党の差（指標③）を時系列で示したのが，図 2. である。00 年は PP の絶対多数獲得のため，第 3 期の中でも比較的両党の差は大きいが，08 年も含め 93 年以降は概ね競合度が 5 前後あるいはそれ以下である。ここからも，93 年以降を一時期と画する根拠を得られる。

次に，イデオロギーに関する指標④及び⑤だが，これは紙幅の都合上，また両者が詳細な指標測定法[47]を明らかにしていないこともあり，推測に頼る他ないが，比較的容易に推測しうるのではないか。まず④に関して，仮に政治に影響を与えうる政党[48]を，「下院に議席を持つ政党」とし，その政党を左から右に並べたとする。CIS の 2004 年総選挙後世論調査を参照するなら，最も左に位置するのは IU（僅差で ERC），最も右に位置するのは PP となる[49]。議席数，得票数，得票率ともに，PP は微増，IU（あるいは ERC）は減少であり，IU（あるいは ERC）と PP 間のイデオロギー距離，つまり指標④が，2004 年に比して著しく広がるあるいは狭まるとは考えにくい。

⑤については，まず方法の面において，両者は全政党をイデオロギー上の「左―右」の軸に分けているのみであり，「中心―周辺」（全国政党と地域主義政党）のもう一つの軸は採用していない。上にも

47　指標測定法については，多くの論者により異なる。両者は，Sartori, *op. cit.* を参考に，独自の工夫を加えたと述べている。

48　サルトーリ言うところの，“relevant parties”。どこまでをそのような政党として扱うかについても，議論の余地は少なくなかろう。Sartori, *op. cit.*，特に第 2 部第 5 章第 1 節，第 2 節。

49　CIS, *Estudio 2559 Postelectoral Elecciones generales y al Parlamento de Andalucía 2004*, Resultado Total Nacional（http://www.cis.es/cis/opencms/-Archivos/Marginales/2540_2559/2559/e255900.html）の質問 15 より。
なお，この選挙後世論調査は CIS により地方選・総選挙などのレベルを問わず，毎回実施されている。2008 年総選挙についても実施されたが，上の質問 15 と同様の質問がない。2008 年総選挙後世論調査は，CIS, *Estudio 2757 Postelectoral Elecciones generales y al Parlamento de Andalucía 2008*, Resultado Total Nacional（http://www.cis.es/cis/opencms/-Archivos/Marginales/2740_2759/2757/e 275700.html）を参照。

触れた指標⑥を別立てしており，重複するからであろう。この2軸のうち，「左―右」軸においては，余り変化は現れないであろう。大きな後退を蒙ったのは，IU及び，地域主義政党のうちでも左派政党（ERC，EA）であり，その多くは，少なくとも議席の形でPSOEに吸収されている（表6.参照）。他方，「中心―周辺」に関しては，先にも触れた通り，特に左派の地域主義政党に大幅な後退が見られることから，一定の変化が推測できる。

あくまで大雑把な推測の域を出ないものの，総じて，政党システムという観点からは，08年総選挙結果は第3期の特徴から大きく逸脱しないのではないか。他方，第3期の内部での細分化は可能かもしれない。両者は，2000年を分岐点とみなしうる可能性に言及している。つまり，IUが大敗した2000年（21議席から8議席）以降は，図1.に明白なように，「二大政党の拡大」の期間に入っている。その場合でも，08年選挙も第3期後半の延長上にあると解釈できる。

おわりに

政治研究において，「Spain is different」の根拠の一つとされるのは，実はこの「二大政党＋地域主義政党」というスペイン独自の政党システム，とりわけ地域主義政党の存在である[50]。少なくとも現時点において，国際比較の観点から「スペインが違う」とすれば，それは「左派浮動層」が存在するからではなく，地域主義政党が存在しかつ議会内で一定の勢力を維持しており，かつ既存の政党システム分類のどれを当てはめても収まりが悪いからではないだろうか。そして，その政党システムの「特殊性」は，「政治における中央（マドリード）－周辺（国内各地域）の緊張関係」という，スペインの一つの歴史的特徴の表出形態の一つに他ならない。スペインが「地域主義国家」と呼ばれるゆえんである。

その背景の一つとして，スペインが中央地方間の調整メカニズムを制度的に欠いているという事情がある[51]。現状では，下院で与党が相対多数の場合，地域主義政党が案件ごとに絶対多数（176議席）を保障する代わりに与党から譲歩を引き出すという形で政治的決着が図られることにより，その機能を代償している側面がある。

加えて，この「スペイン的」特徴の行く末に関し，特に今回総選挙で議席を減らした地域主義政党の動向が注目される。例えば，CiUとPNVは，それぞれ下院で11議席，6議席と相対多数のPSOEを揺さぶるに十分な議席を得た。しかし，自治州議会においてそれぞれの複雑な事情がある。CiUは，03，07年カタルーニャ自治州選挙で第一党ながら，2回ともPSOEの連合政党であるPSC，及びICVとERCの三党連立に与党を奪われた。イデオロギー的にはPPと近いが，近年関係が悪化している[52]。PNVは注25に述べた通り，PSEとPPの左右連合政権に取って代わられた。

08年総選挙は，スペイン政治の歴史的特徴，及びそれが，場合によっては一つの転換点に向かいつつある可能性を明らかにしたと見ることもできよう。

（かとう　しんご　　総合教育センター）

50　例えば，Mario Bilbao Arrese, “Ley electoral y sistema de partidos en España” en *Revista de Estudios Políticos*（*Nueva Época*）Número 85, Julio-Septiembre de 1994, pp. 313-321.

51　野上和裕「スペイン行政の『近代化』」，日本比較政治学会編『世界の行政改革』，1999年，pp. 98-101。

52　キャンペーン中党首のマス自ら「PPと連立を組まない」との「公正証書」にサインするパフォーマンスまで演じた。また，CiUに近いカタルーニャPPのピケ前党首は，PP中央執行部での強硬派伸張のあおりで，党首ばかりか政界も引退している。